

CODE 海外災害援助市民センター
2006 年度事業報告
2006. 4. 1～2007. 3. 31

CODE 海外災害援助市民センター
2007. 6. 17 総会資料

◆事業報告一覧

事業	事業名	実施日時	実施場所	受益対象者の範囲及び予定人数	支出額 (千円)
海外災害地への救援活動事業	救援プロジェクト	随 時	アフガニスタン	対象地域住民	1764
		随 時	アルジェリア	対象地域児童	0
		随 時	イラン・バム	対象地域住民	615
		随 時	スリランカ	対象地域住民	3065
		随 時	アメリカ南部	対象地域住民	0
		随 時	パキスタン	対象地域住民	3557
		随 時	フィリピン南レイテ州	対象地域住民	500
		随 時	ジャワ島中部	対象地域住民	5493
人材育成事業	NGO ことはじめ	3回(2006年12月～2007年2月)	CODE 事務所	延べ36名	45
	HAT 神戸内 国際機関訪問ツアー	1回(2006年8月)	神戸市内	8名	0
	ボランティアの日	5回	CODE 事務所	延べ35人	42
災害関連情報の収集及び発信事業	災害情報サイト(CODE World Voice)の運営	随 時	全 国	不特定多数 翻訳ボランティア 20名	221
国内外のネットワーク構築事業	関係機関の開催するセミナー、シンポジウムへ出席	随 時	全 国	—	30
	留学生セミナー	6日間(2007年3月)	神戸市内	留学生8人	230
	「ほっとけない世界のま ずしさ」キャンペーンへの参加	2005年4月～ 2006年3月	神戸市内	不特定多数	9
「市民による災害救援」に関する調査・研究事業	協同組合の勉強会	実施せず	—	—	0
	予防防災の取り組み	実施せず	—	—	0
「市民による災害救援」に関する啓発及び広報活動事業	賛助会員数の増加	随 時	全 国	不特定多数	0
	講師派遣と報告会	随 時	全 国	不特定多数	58
	機関誌とインターネット	機関誌は隔月発行、インターネットは随時	CODE 事務所	機関紙 700名/団体	356
	冊子等の発行	随 時	事務所	不特定多数	104
その他本会の目的達成の為に必要な事業	実施せず	—	—	—	0

【海外災害（地）への救援活動事業】

事業名	アフガニスタン救援プロジェクト
実施日時	随時（2002年7月17日からの継続事業）
実施場所	アフガニスタン カブール州ミール・バチャ・コット地域
受益対象者の範囲及び人数	ミール・バチャ・コット地区ババカシュガルの4村のぶどう家族500所帯とその地域住民（全世帯数1560世帯）
実施内容	<p>2002年7月からスタートしたアフガニスタンぶどう畑再生プロジェクトは、4年が経過した。2006年度は5月に現地を訪れたが、その後は同国による極端な治安悪化の影響もあり、訪れることができなかった。しかし、初年度288世帯を対象にスタートした同プロジェクトも、今では412世帯まで増え順調に進んでいるといえる。同村の女子学校支援である「壁づくり」も2面が完成し、いよいよ校庭内でのぶどう苗育成が可能になってきた。一方、前年度からJICA兵庫に提案してきた「草の根技術協力事業（地域提案型）」については内定を頂き、来年度に具体化する運びになった。</p> <p>日本国内でのぶどう畑再生プロジェクト会員については、新規加入者よりも継続者が多い。昨年度の会員数は297人（有効3年会員と昨年度の申し込んだ1年会員の合計）。</p>
海外派遣	2006年3月30日～4月6日 第10次アフガニスタン調査（村井・飯塚）

事業名	アルジェリア地震救援プロジェクト
実施日時	随時（2003年5月23日からの継続事業）
実施場所	アルジェリア
受益対象者の範囲及び人数	対象地域住民
実施内容	地震発生直後に現地入りしたクワテモック（メキシコクワテルロコ住民連絡会議・CODE海外研究員）やCODEもメンバーである世界語り継ぎネットワークを通じて情報収集し、検討してきたが、政情不安定の影響もあり、適当なカウンターパートを見つけるに至っていない。来年度も引き続き情報収集を継続する。

事業名	イラン南東部地震救援プロジェクト
実施日時	随時（2003年12月26日からの継続事業）
実施場所	イランケルマン州バム
受益対象者の範囲及び人数	対象地域に住んでいる約100人の子どもと同地域に住む助成など若干名
実施内容	<p>地震発生以来継続してきた、被災地バムにおける「コミュニティセンター」や音楽教員養成事業などは順調に進み、特に音楽教員養成についてはサイード先生が教えた一人の先生が現場でみずから教える側になるという成果も見えてきた。一方同センターは、隣屋の不審火によって一部火災に遭ったが、それにもめげず子どものカラテ教室や女性のための縫製技術習得事業は続けられてきた。圧巻はサイード先生が、同センターの中に大きな人形劇の舞台をつくり、脚本から実技指導までして防災教育を行っていること。</p> <p>しかし、今後の課題としてテヘランから支援に来ていたキーパーソンであったバタニさんがほぼ完全にテヘランに引き上げ、続いてサイード先生も自分の仕事に本格的に関わらざるを得なくなったので、ほぼ現地のスタッフに任せるような形になった。そういう意味では少しずつ「自立」しつつあると見ることができる。</p> <p>また、懸案であったバムの復興歌「ペルシャ語版しあわせ運べるように」が収録されたCDテープを製作する計画を立てているが、全体の見積もりが妥当か否かの材料が揃わないため、支援をすることは決まったが、その程度については判断する材料が揃わないため継続審議となっている。次年度に持ち越し。</p>
海外派遣	なし

事業名	スマトラ沖地震津波プロジェクト
実施日時	随時（2004年12月26日からの継続事業）
実施場所	スリランカ
受益対象者の範囲及び人数	スリランカ：防災教育支援：のべ約1800人 （8つの村で9回の連続プログラムと35回のキャンプを実施） 幼稚園・保育園再建支援：約240名（予定） （6つの地域で幼稚園を建設） 漁業組合支援：約300名（2つの地域で実施） 絵本が完成すれば、その読者すべて
実施内容	同事業についての支援継続対象国はスリランカのみになった。2006年2月～同年12月31日までの約11ヶ月は、スリランカYMCA同盟と国連ボランティア計画とCODEの3者の契約による防災教育を展開し、予定通りすべての事業が12月31日に終了した。これに関連した防災教育については、対象地域を南部マータラ県タララ村とし、半年間をめぐりに事業継続を支援することとした。担当は現地スタッフである濱田久紀を半年の延長措置をとり支援することとなった。（ちなみに2007年4月以降も活動中） また幼稚園・保育園再建支援については、南部のヒッダ ^g の保育園建設を1軒残すのみとなった。漁業組合支援については、東部（トリンコメリー）南部（クダワラ）の以下所 ^g ずつにそれぞれ1隻の船を提供し、組合の共同管理・運営としている。南部に提供した船は、一昨年エンジンが故障し組合の負担で修復にかかった。東部トリンコメリーの状況については、政情不安・治安悪化のためまったくモニターができない状態が続いている。 また、国連ボランティア計画との連携事業とは別に、災害直後からスリランカYMCAに支援してきた防災教育支援としての「絵本づくり」については、追加支援も行い2007年1月からあらためて取り組むことになっていたが、年度末の段階では、全く進展がない。継続して報告を求めている。
海外派遣	2006年1月20日～12月31日 UNVとして、スリランカ派遣（濱田） 2006年8月9～13日 第10次スマトラ沖地震津波調査スリランカ（村井・岡本）

事業名	パキスタン北東部地震救援プロジェクト
実施日時	随時（2005年10月8日からの継続事業）
実施場所	パキスタン・イスラム共和国アザド・ジャム・カシミール州（AJK）ムザファラバード市街地ワード13地区
受益対象者の範囲及び人数	上記にすむ住民で、主に生活向上プログラムにかかわる女性たち
実施内容	地震発生以来の現地訪問及び調査を受けて決定した事業「女性の生活向上を伴う職業訓練センター」建設のための調整にほぼ1年を費やした。年度末に再度現地入りし、確認してきたところ建設予定地も決まり、支援対象の女性たちも楽しみにしていることが確認できた。CBOの委員会はじめ女性たちもCODEを通して日本のみなさまの支援を大変喜んで下さっていることも確認できた。 他方、直後から追求していた「住宅のローコスト耐震補強」事業については、パキスタン国の復興に関するマスタープランが1年を経過してもでることがなく、耐震補強プロジェクトが相手国に認知を受けなかったこともあって残念した。
海外派遣	2006年8月14日～23日 第3次パキスタン地震調査（村井・岡本） 2007年3月17日～25日 第4次パキスタン地震調査（岡本）

事業名	フィリピン・レイテ島地滑り災害救援プロジェクト
実施日時	随時（2006年2月17日からの継続事業）
実施場所	フィリピン 南レイテ州
受益対象者の範囲及び人数	対象地域住民
実施内容	2006年2月17日にフィリピン、南レイテ州で地滑りが発生。いろいろな関係機関から情報収集をしてきた結果、阪神・淡路大震災時からの縁のあったT氏（当時アドラ・ロシア）の所属する「ハビタット・フォー・ヒューマニティ・ジャパン（HHJ）」を通して、住宅建設（スチールフレーム住宅）を支援した。HHJは日本政府、赤十字からあわせて630軒の住宅建設を請け負っているが、工具類に廻す資金がないとのことで、CODEの支援金をまわすことになった

事業名	ジャワ島中部地震救援プロジェクト
実施日時	随時（2006年5月27日から継続事業）
実施場所	インドネシア・ジャワ島中部 バントゥール県バングンタバン市ウィロケルテン村ボトクンチェン集落
受益対象者の範囲及び予定人数	被災地域であるボトクンチェン村の住民108人（25世帯）
実施内容	2006年5月26日に発生した地震を受けて、救援プロジェクトを開始した。プロジェクトは上記ボトクンチェン村の全半壊家屋25軒の住宅再建支援を行い、2006年10月に完成。その後の支援については、現地のキーパーソンと意見交換を続けながら追求していく。ただ、村のリーダーであったソギマンさんが年明け早々に急死されたことは、しばらく今後に大きな影響を落とす。
海外派遣	2006年6月3日～12日 第1次ジャワ中部地震調査（吉椿・岡部） 2007年7月23日～31日 第2次ジャワ中部地震調査（村井・横山） 2007年9月14日～20日 第3次ジャワ中部地震調査（横山） 2007年11月19日～25日 第4次ジャワ中部地震調査（村井） 2007年12月22日～28日 第5次ジャワ中部地震調査（横山）

【人材育成事業】

事業名	NGO ことはじめ
実施日時	12月15日、1月12日、2月8日の3日間
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び人数	「NGO って何？」(参加者 12名) 「アフガニスタンの今」(参加者 14名) 「災害救援と国際協力」(参加者 10名) のべ参加者 36名
実施内容	企画が遅くなったので年度後半の3回のみ開催となったが、ターゲットを学生にしぼり、彼らが知りたいこと、学びたいことを神戸大学アイセック有志の全面的な協力を得て企画した。「NGOとは一体何なのか？」を切り口に、今のNGO活動や、国際協力の現状と課題、市民が国際協力で果たす役割とはなんなのか、を参加者とともに考えていく講座となった。

事業名	HAT 神戸内 国際機関訪問ツアー
実施日時	8月24日
実施場所	HAT 神戸
受益対象者の範囲及び人数	訪問先(参加者 14名) アジア防災センター、国連人道問題調整事務所リリーフウェブ神戸、 国連地域開発センター、国際協力機構兵庫国際センター
実施内容	HAT 神戸内にある国際機関を訪問し、見学するツアーを開催した。国際協力の現場で働くスタッフと交流することで、もっと国際交流を身近に感じてもらうとともに、国際機関の役割やNGOとの連携の可能性について考えることを目的とした。参加者の過半数は学生で、各機関のインターン制度などに興味を示していた。

事業名	ボランティアの日
実施日時	4月29日、5月28日、7月16日、9月23日、12月27日の5日間
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び人数	ボランティアに関心のある人 約50名 (ボランティア登録者数は約50名)
実施内容	CODE ボランティアの定着化をはかるために、2ヶ月に1回程度、休日にボランティアの日を設定しているが、高校生から社会人まで様々な方が参加している。ボランティアの内容は、CODE Letter、ぶどう新聞の発送作業、チラシ作り作業等である。

【災害関連情報の収集及び発信事業】

事業名	災害情報サイト (CODE World Voice) の運営
実施日時	随時 (2002 年からの継続事業) CODE 翻訳ボランティアによる翻訳作業は年間 22 回
実施場所	全国 (在宅による翻訳)
受益対象者の範囲及び人数	災害情報を得ている人は不特定多数 CODE の翻訳ボランティアは約 30 名
実施内容	<p>CODE 発足当初から継続して「World Voice～災害から見る人々の暮らし～」は、約 30 人の翻訳ボランティアの協力により UNOCHA リリーフウェブの翻訳及び発信を行い、海外の災害情報を日本語で発信することができた。</p> <p>5 年目になる今年度は、「国際交流事業助成金」を使って、専任のアルバイトスタッフを置き、翻訳作業を定着させるよう努めた結果、不定期だった HP へのアップが定期的に行えるようになった (4 月 3 件、5 月 1 件、6 月 6 件、7 月 2 件、9 月 16 件、10 月 2 件、11 月 1 件、12 月 3 件、2 月 1 件、3 月 2 件)。</p> <p>また、翻訳ボランティア用の ML を作ったことにより、他の人の動きが判るようになり、積極的に関わりだした。</p>

【国内外のネットワーク構築事業】

事業名	関係機関の開催するセミナー、シンポジウムへ出席
実施日時	随時
実施場所	全国各地
受益対象者の範囲及び人数	——
実施内容	国内外のネットワークを構築するために、関係機関の開催するセミナーやシンポジウム、イベントなどへ参加、出席した。今年度から神戸学院大学の前期（13回）に行われる防災・社会貢献ユニットを連携して行う。 詳細は下記の表の通り。

開催日時	セミナー及びシンポジウム名	主催団体
4月10日	神戸学院大学「社会貢献論Ⅰ」	神戸学院大学
4月17日	神戸学院大学「社会貢献論Ⅰ」	神戸学院大学
4月24日	神戸学院大学「社会貢献論Ⅰ」 (ゲスト SVA 市川齊)	神戸学院大学
5月1日	神戸学院大学「社会貢献論Ⅰ」 (ゲスト SVA 飯塚明子)	神戸学院大学
5月8日	神戸学院大学「社会貢献論Ⅰ」	神戸学院大学
5月16日	NGO 地域会議	UNOCHA
5月18日	神戸学院大学「社会貢献論Ⅰ」オープンカレッジ (ゲスト 林同春)	神戸学院大学
5月22日	神戸学院大学「社会貢献論Ⅰ」	神戸学院大学
5月29日	神戸学院大学「社会貢献論Ⅰ」	神戸学院大学
5月30日	IRP シンポジウム	IRP (国際防災復興協力機構)
6月12日	神戸学院大学「社会貢献論Ⅰ」	神戸学院大学
6月17日	コープこうべジャワ地震支援金贈呈式	コープこうべ
6月22日	神戸学院大学「社会貢献論Ⅰ」オープンカレッジ (ゲスト 熊岡路矢)	神戸学院大学
6月28日	ジャワ島中部地震報告会	神戸大学都市安全研究センター
7月3日	神戸学院大学「社会貢献論Ⅰ」	神戸学院大学
8月18日	コープこうべジャワ地震支援金贈呈式	コープこうべ
8月23日	ジャワ島中部地震報告会	神戸大学都市安全研究センター
8月24日	スリランカ YMCA 研修生来訪	神戸 YMCA
9月24日	NGO 大学パネラー	関西 NGO 協議会
10月24日	JVC タイ研修生レクチャー	JVC
12月9日	JICA・NGO 協議会	JICA 大阪
12月15日	神戸大学 COE 報告会	神戸大学都市安全研究センター
1月7日	インド洋地震津波災害研究フォーラム	民族博物館
1月10日	IOM 報告会「スリランカにおける津波被害の復興」	神戸大学都市安全研究センター
1月11日	シンポジウム「21世紀の減災戦略～減災文化の構築に向けて」	
1月13日	災害メモリアル KOBE 2007	災害メモリアル KOBE 実行委員会
1月15日	国際津波・地震フォーラム	IRP (国際防災復興協力機構)
1月18日	2007 国際防災シンポジウム	UNCRD
1月28日	コープファミリーフェスタ (西宮)	コープこうべ

2月9日	21世紀文明研究シンポジウム	21世紀文明研究機構
2月21日	神戸学院大学防災・社会貢献研究会	神戸学院大学
3月14日	AMIS 関係団体交流会議	
3月16日	コープこうべ自然災害救援基金運営委員会で報告	コープこうべ
3月24日	災害復興ガイド出版記念シンポジウム	災害復興ガイド編集委員会
3月24日	鼎談「日本の災害史から見た阪神・淡路大震災」	TeINET

事業名	留学生セミナー
実施日時	3月5日～10日
実施場所	神戸市内
受益対象者の範囲及び人数	留学生8名
実施内容	2004年度以降、JICA 兵庫からの委託により留学生セミナーを実施している。既に来日している留学生の春休みを利用したセミナーで、「阪神・淡路大震災」と「その後の復興に係る市民活動」をテーマに、講義とフィールドワークを交えた研修を6日間行なった。

事業名	「ほっとけない世界のまずしさ」キャンペーンへの参加
実施日時	9月から継続事業
実施場所	全国各地
受益対象者の範囲及び人数	ホワイトバンド販売数74本（本年度の入荷はなし）
実施内容	<p>「ほっとけない世界のまずしさ」ホワイトバンドキャンペーンは、貧困と闘うグローバルなキャンペーンの一翼で、引き続きキャンペーン事務局や他の賛同団体、地域で貧困の問題に取り組む人々と連携し、ホワイトバンドの販売を促進した。</p> <p>本キャンペーンのシンボルであるホワイトバンドは前年度2300本入荷したが、在庫が254本あるので、引き続きその販売を行った。売上は1本300円のうち、100円がキャンペーン事務局からの買い取り価格で、100円をアフガニスタンのぶどう基金に使い、100円を管理運営費に使った。</p>

【「市民による災害救援」に関する調査・研究事業】

事業名	協同組合の勉強会
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び人数	理事関係者
実施内容	継続して勉強会を計画したが、開催できなかった。

事業名	予防防災の取り組み
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び人数	学習会関係者
実施内容	昨年度、室崎先生に講演していただいた内容を基に、学習会を開く予定だったが、開催できなかった。

【「市民による災害救援」に関する啓発及び広報事業】

事業名	賛助会員数の増加
実施日時	随時
実施場所	全国各地
受益対象者の範囲及び人数	不特定多数
実施内容	<p>賛助会員 個人・NGO・NPO 68名・109口（一口2,000円） 団体 5団体・6口（一口10,000円）</p> <p>前年度 個人・NGO・NPO 114名/団体・173口 団体 5団体・7口</p>

事業名	講師派遣
実施日時	随時
実施場所	全国各地
受益対象者の範囲及び人数	不特定多数
実施内容	<p>講師の依頼を受けスタッフを派遣した。 詳細は下記の表の通り。</p>

開催日時	講義名	主催団体	講演者
4月15日	ラジオ出演「ネットワーク1.17」	MBS 毎日放送	村井
4月18日	大阪大学で講演	大阪大学	村井
5月11日	TV取材「ボランティア21」	テレビ大阪	村井
5月20日	姫路中央ロータリークラブ学友会で講演	姫路中央ロータリークラブ学友会	村井
5月26日	国際交流講演会	高砂市国際交流協会	飯塚
6月1日	大阪香英女子短期大学で講義	大阪香英女子短期大学	飯塚
6月2日	ラジオ出演「おはよう！ニュース探偵局」	ABC ラジオ	村井
6月15日	私立保育園連盟 2006年大会 分科会参加	私立保育園連盟	村井
7月11日	コープこうべ三田地区で講演	コープこうべ三田地区	村井
7月16日	コープこうべ西宮地区「平和の集い」で講演	コープこうべ西宮地区	村井
7月21日	防災士研修 高松会場で講義	日本防災士機構	村井
8月4日	防災士研修 福知山会場で講義	日本防災士機構	村井
8月27日	防災士研修 大津会場で講義	日本防災士機構	村井
9月1日	防災士研修 伊予会場で講義	日本防災士機構	村井
9月18日	防災士研修 札幌会場で講義	日本防災士機構	村井
10月10日	舞子高校で講義	舞子高校	村井

10月21日	21世紀文明研究セミナー	21世紀文明研究機構	細川・横山
10月27日	防災士研修 岡山会場で講義	日本防災士機構	村井
11月9日	World Topics in Sayo で講演	佐用町	村井
11月10日	防災士研修 倉敷会場で講義	日本防災士機構	村井
11月13日	アンデス災害医療マネジメントコースで講義	災害医療センター	村井
11月28日	あかしあ台小学校家庭教育学級運営委員会で講演	あかしあ台小学校家庭教育学級運営委員会	村井
12月6日	龍谷大学で講義	龍谷大学	村井
12月16日	防災士研修 神戸会場で講義	日本防災士機構	村井
1月17日	NHK 出演「生活ほっとモーニング」	NHK 大阪	村井他
1月18日	防災技術展示会のパネラー	技術士の会	村井
1月23日 24日、25日	楠高校で講義	楠高校	村井・細川
2月10日 17日	箕面生涯学習センター「予防防災」講座で講演	箕面生涯学習センター	村井
2月13日	兵庫県学生ボランティアミーティングで講演	兵庫県学生ボランティア	岡本
3月9日	防災士研修 大阪会場で講義	日本防災士機構	村井
3月17日	新宗連ピースフェスタで講演	新宗連青年会近畿連盟	村井

事業名	救援プロジェクト報告会
実施日時	随時
実施場所	全国各地
受益対象者の範囲及び人数	不特定多数
実施内容	CODE が行なっている救援プロジェクトについて、各地の支援者と報告会を企画、実施した。 詳細は下記の表の通り。

開催日時	講義名	主催団体	講演者
6月20日	ジャワ島中部地震報告会	CODE	吉椿
6月21日	ジャワ島中部地震報告	コープこうべ理事会	吉椿
6月22日	ジャワ島中部地震報告会	神戸学院大学	吉椿
7月5日	ジャワ島中部地震報告会	神戸女学院大学	吉椿
7月28日	ジャワ島中部地震報告会	神戸工業高校	吉椿

事業名	機関誌とインターネット
実施日時	機関誌は隔月発行 インターネット（ホームページ、メーリングリスト）は随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び人数	機関誌は全国各地、約 700 名/団体 メーリングリスト、約 250 名 ホームページは不特定多数
実施内容	各救援プロジェクトやセミナーなどの情報を中心に機関紙やインターネット（メーリングリスト、ホームページ）を通して、発信を行なった。 CODE の機関誌である「CODE レター」は 4 回発行。プロジェクトニュース 4 回の発行。ぶどう新聞 1 回の発行。ニュースやセミナー等のお知らせはメーリングリストを通して随時発信。ホームページ（HP）にもその都度掲載した。また、神戸市のアドバイザー派遣事業を利用して、HP の管理や見やすい工夫等のアドバイスも受けた。

事業名	冊子等の発行
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び人数	不特定多数
実施内容	「災害救援 支えあいは国境を越えて」（神戸新聞総合出版センター発行）を引き続き販売した。売上げ数 7 冊。 前年度実施された室崎益輝副代表理事による寺子屋セミナー「予防防災」の冊子は、編集作業は終わったが発行に至らなかった。

【その他本会の目的達成の為に必要な事業】

事業名	CODE エイド設立のための研究会
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	
実施内容	発足当初も検討されていたが、震災から 11 年が経過したことから、再度研究会を立ち上げる予定だったが実現しなかった。

事業名	支援グッズ販売
実施日時	随時
実施場所	随時
受益対象者の範囲及び予定人数	
実施内容	被災地の復興を側面から支援するため、被災地のクラフトを取り扱う。2005 年度に引き続き、阪神・淡路大震災後、被災者の自立・しごとづくり事業として生まれた「まけないぞう」を CODE の災害救援グッズとして扱った。ただ、販売より支援グッズとして寄贈したものがほとんどである。